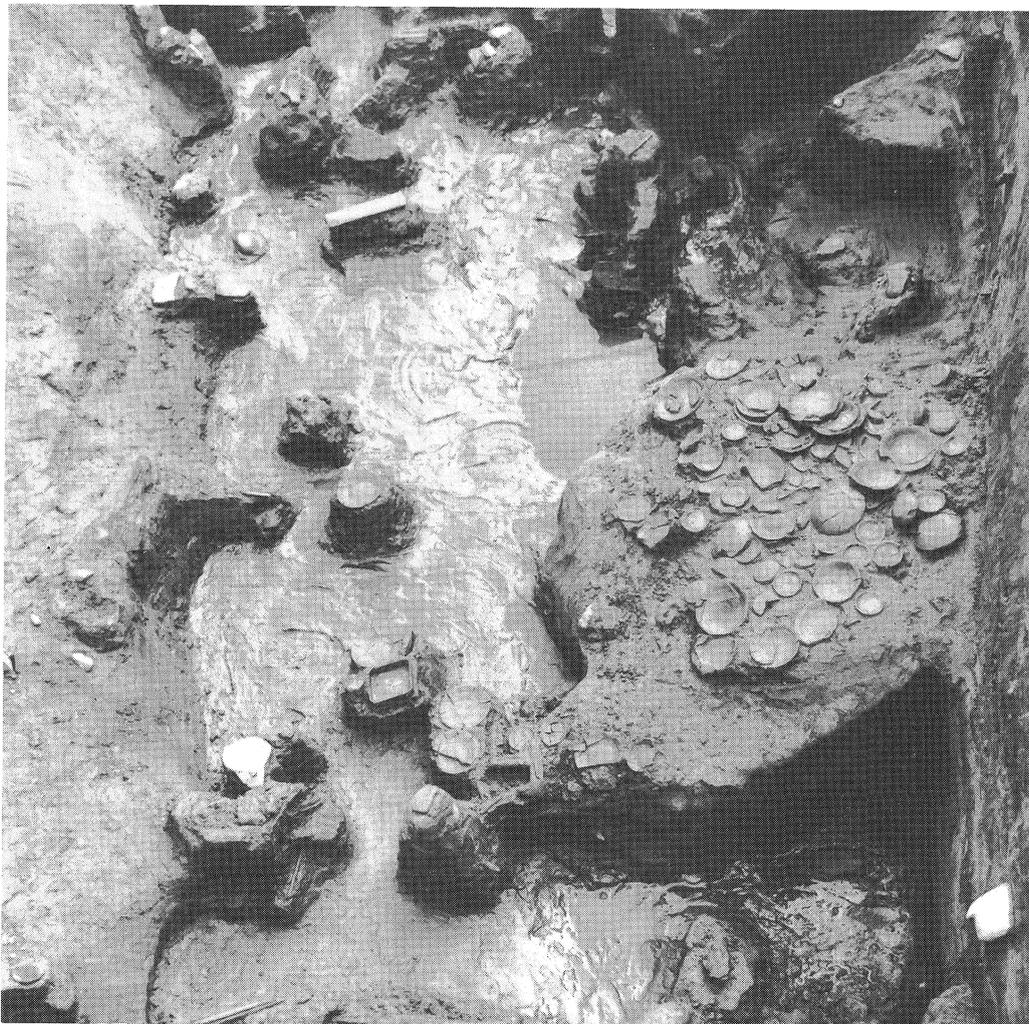


埋蔵文化財 愛知

No.13



岩倉城遺跡の調査

岩倉市下本町字城址にある岩倉城遺跡は、五条川の自然堤防上に立地する。かつて室町時代にはここに岩倉城があり、城主織田氏は尾張上四郡を統治し、下四郡を治めた清洲城の織田に対抗した。しかし永祿二年（1559）に織田信長に攻められ、落城したと伝わる。発掘調査区は本丸の北西部にあたり、掘らしい大溝の中から素焼きの皿や木製品などが多量に出土している。（6ページに関連記事掲載）

昭和63年度事業計画

・埋蔵文化財発掘調査及び報告書の刊行

- 名古屋環状2号線関係 約36,791㎡
1. 朝日 2. 勝川 3. 松河戸遺跡
- 国道23号線岡崎バイパス関係 約5,800㎡
4. 志貴野 5. 小島遺跡
- 合同庁舎建設関係 約3,600㎡
6. 名古屋城三の丸
- 新図書館建設関係 約7,600㎡
6. 名古屋城三の丸
- 勝川地区土地区画整理関係 約450㎡
4. 勝川遺跡
- 県道清洲新川線関係 約2,860㎡
7. 清洲城下町遺跡
- 県道萩原多気線関係 約1,470㎡
8. 岩倉城遺跡
- 県道東三河環状線関係 約1,900㎡
9. 麻生田大橋遺跡
- 県道蒲郡碧南線関係 約2,400㎡
10. 岡島遺跡
- 県道碧海桜井中島線小川橋整備関係 約2,500㎡
11. 加美遺跡
- 県道247号線関係 約2,000㎡
12. 松崎貝塚
- 県道151号線関係 約1,900㎡
13. 諏訪遺跡 14. 杉山端城遺跡

- 五条川改修関係 約3,800㎡
8. 清洲城下町遺跡
- 東幡豆港港湾改修関係 約500㎡
15. 下山古墳群
- 報告書の刊行
町田遺跡(名古屋環状2号線関係)
加美遺跡(県道碧海桜井中島線小川橋整備関係)
諏訪・杉山端城遺跡(県道151号線関係)
下山古墳群(東幡豆港港湾改修関係)

・発掘調査技術等研修会の開催

- 基礎研修会 2日間 募集人員 30名
- 専門研修会 2日間 募集人員 40名

・広報紙誌の発行

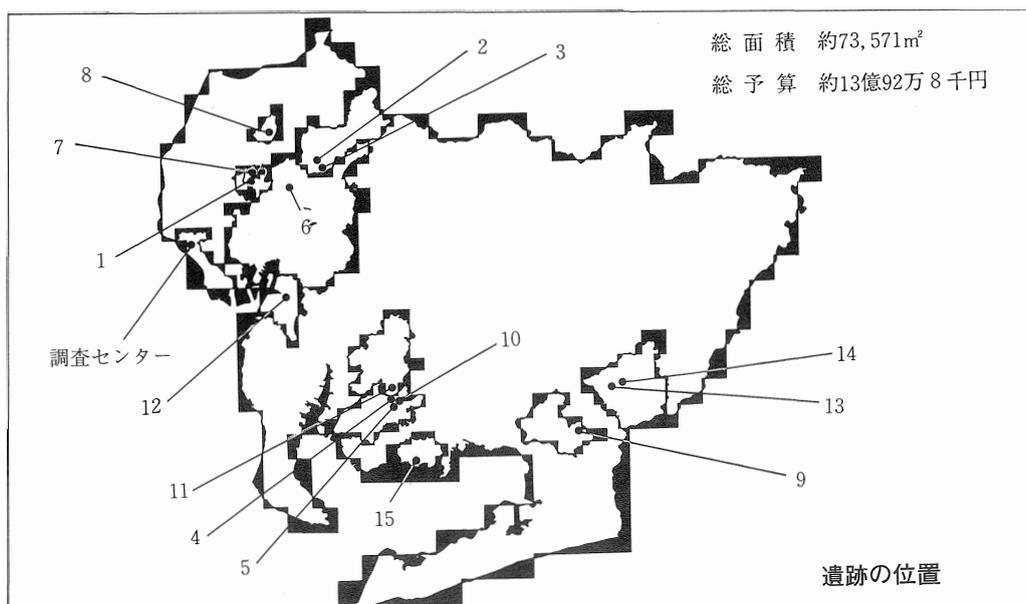
- 「愛知県埋蔵文化財情報」の発行 年1回
- 「埋蔵文化財愛知」の発行 年4回

・埋蔵文化財展の開催

- 三河会場 蒲郡市郷土資料館
7月29日～8月7日
- 尾張会場 愛知県埋蔵文化財調査センター
8月15日～8月31日

・埋蔵文化財講演会の開催

- 三河会場 蒲郡市市民会館中ホール
- 尾張会場 愛知県埋蔵文化財調査センター



愛知県教育委員会実施の調査事業

愛知県教育委員会文化財課

県教育委員会は、遺跡の周知徹底をはかり、様々な開発事業との調整・協議のための基礎的資料の作成を、市町村教育委員会の協力をえてすすめてきたが、本年度も次に掲げる調査も実施していく。

(1) 中世城館跡分布調査事業

－尾張地区－

文化財課では、昭和54年度に市町村教育委員会の協力のもとに県下の城郭遺跡の現況概要を調査し、823カ所（尾張地区 272カ所）の城館跡を確認している。それらは、山間部・丘陵部・平地部に立地し、多様な形態を示している。しかし、近年の山林の著しい荒廃や各種開発事業の進行に伴って、城館跡の原状が変容し、さらには滅失するおそれが増大しつつある。このため、城館跡の現状等を正確に把握し、その保存に努めるとともに、開発事業との調整・協議に備えるため分布調査を実施するものである。

また、県下の城館跡の多様な形態は、中世から近世初期にかけての尾張・三河の政治的あるいは軍事的情勢を反映しているものと考えられ、この視点での研究資料の蓄積を目的としている。

調査方法は、関係市町村教育委員会の協力のもとに漸次計画的に現地踏査を実施し、城館跡の現状確認、開取り調査及び縄張図の作成を行う。同時に、関連する文献・地誌・絵図・地籍図を検索し、必要に応じてそれらの撮影・複写を行い、調査カードを作成する。

本年度及び次年度は、尾張地区（18市・27町・5村）を対象として調査を実施する予定である。

(2) 遺跡分布地図作成事業

－東三河地区－

遺跡分布の周知徹底は、埋蔵文化財保護の基本である。文化財保護法第57条の4では国及び地方公共団体の義務とされ、遺跡分布地図は開発事業と埋蔵文化財保護との調整・協議をすすめるうえで、最も有効な資料となっている。

このため、県教育委員会では昭和59年度より、6ヶ年計画で新しい遺跡分布地図作成をすすめており、62年度までに「愛知県遺跡分布地図(1) 一 尾張地区」「同(2) 一 知多・西三河地区」を刊行してきた。本年度は第6年次に当り、東三河地区を対象とする。

この調査では、当該市町村教育委員会と協力しながら、遺跡の現況・所在地・出土遺物の状況・保管場所等を把握し、遺跡台帳と分布図作成を行う。遺跡台帳は市町村毎に遺跡番号を付し、分布地図は国土地理院発行1/25,000図を利用する。また、遺跡に加えて、各市町村所在国・県・市町村指定の史跡・名勝・天然記念物も掲載し、土地に密着した文化財の保護に役立つように努めている。

なお、遺跡の周知徹底は市町村教育委員会においてもきめ細かく実施していくことが大切であるので、これを機に市町村別遺跡分布地図作成がすすめられることを期待したい。

(3) 清洲城跡調査

西春日井郡清洲町に所在する清洲城跡は、応永12年（1405）ごろ尾張の守護職斯波義重により築城されたといわれ、弘治元年（1555）に織田信長が進出、慶長15年（1610）に名古屋城築城に伴う「清須越し」によって解体された経緯をもつ。清洲城は17世紀後半代における尾張支配の中心地であったばかりではなく、近世城下町の形成や都市構造等を知るうえで極めて重要な位置にあると評価されている。

これまでその内容解明が進んでいなかった清洲城跡も、近年、名古屋環状2号線建設や五条川改修事業に伴う発掘調査が行われて、遺構の一部や遺物が明らかにされつつあり、清洲城跡を総合的に調査する必要性が高まってきた。本年度は、研究者・行政関係者による調査委員会を構成し、今後の調査方法・体制等について検討を加えると共に、関連文献・地図・絵図など関係資料の収集を行う。

シリーズ 考古学と自然科学

昆虫化石から古環境をさぐる

日本各地で遺跡の発掘が盛んである。それにともなって新しい事実が次々に判明し、遠い昔の人々の暮らしが明らかにされつつある。

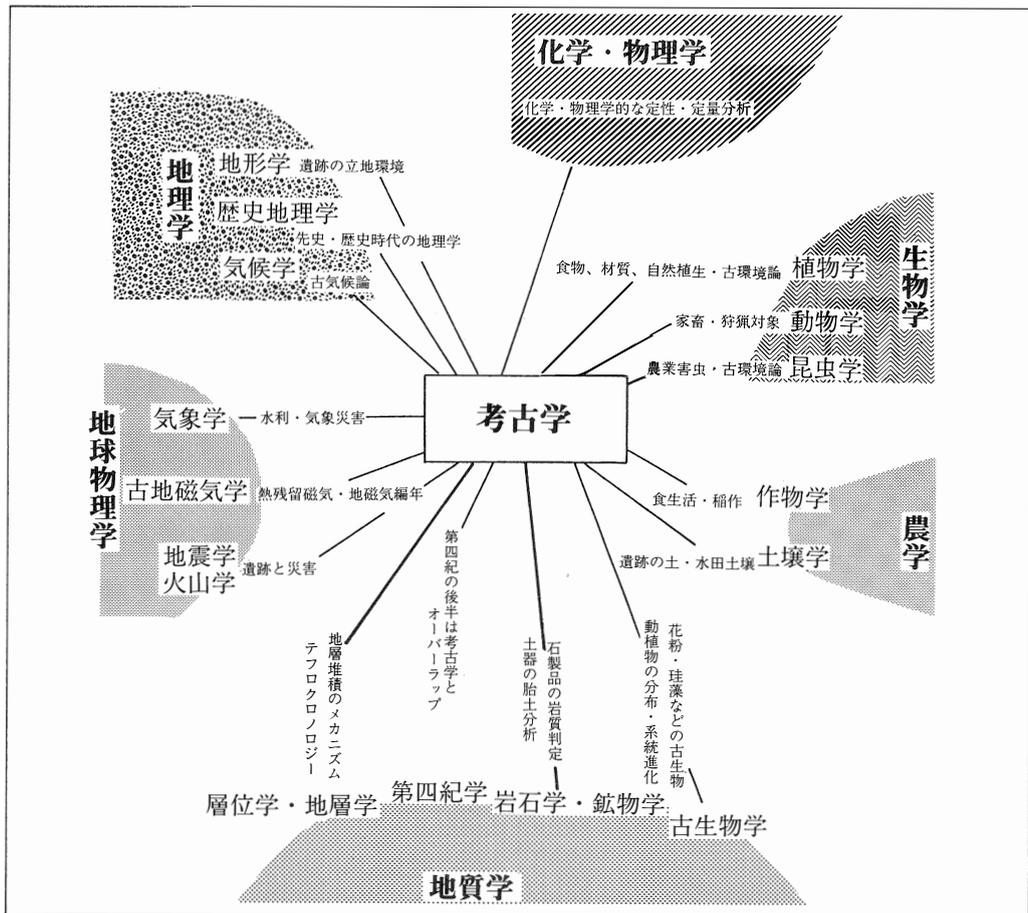
遺跡の現場は、自然科学にとってもきわめて興味のあるフィールドである。長い間、土中に埋もれてパックされてきた情報は考古学のみならずあらゆる学問のタイムカプセルともいえる。このタイムカプセルの中身を自然科学の立場から調べることによって得られる情報は、少なからず歴史学の解明にも貢献することができる。ここでは、表に示した考古学を取りまく自然科学のなかから、4回にわたって紹介する。

農業害虫のルーツ

弥生時代は、稲作とともに語られることが多い。人が低湿地を切り開いて、イネを栽培しはじめた時代である。

そもそも、人間が農作物を栽培するようになって以来、昆虫のうちのいくつかは、農業害虫として人類の敵にまわるようになった。だが、現在知られている農業害虫が、栽培植物の出現というインパクトに対してどのように反応し、害虫化したのか、そのプロセスはまだほとんどわかっていない。

古くからイネの害虫として知られるイネネグイハムシの場合、今から2000年前の弥生時代後

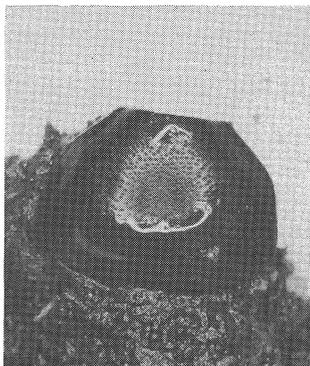


考古学を取りまく自然科学



イネネクイハムシ（右鞘翅）

弥生後期：春日井市勝川遺跡
イネ科植物とくにイネの根を食
害する（長さ6mm）



コアオハナムグリ（前胸背板）

古墳時代：清洲町朝日遺跡
花粉や花卉・葉などを食べる食
葉性昆虫（幅7mm）



センチコガネ（左鞘翅）

弥生中期：西尾市岡島遺跡
牛や馬などの大型草食獣の糞に
集まる（長さ13mm）

期にはすでにイネを食べていたらしいことが愛知県の勝川遺跡から見つかった多くのイネネクイハムシの化石によって明らかになった。イモ類を食べるヒメカンショコガネやイモサルハムシも同様に、弥生時代には人里近くに現れていたことがこのほど判明した。

こうした「栽培や農耕の指標昆虫」を利用して、人類の先史農耕や水田耕作の跡を復元できれば、考古学にも大いに寄与するに違いない。

タデ食う虫も好きずき

昆虫は、すべての生物群のなかでもっとも多い種類数を誇り、全世界のあらゆる環境に適応して生息している。食べ物やその生活空間も実に多岐にわたる。

食葉性昆虫と呼ばれるグループは、主に植物の葉を食べる仲間である。「タデ食う虫も好きずき」のことわざにあるように、昆虫によって食草がそれぞれ違うことから、昆虫化石を調べることによって、遺跡が立地していた当時、そこにどんな植物が生えていたのか、草地だったのか、雑木林だったのか、こういう情報は発見される昆虫化石の種類から推定することができる。「植生環境の指標昆虫」がこれにあたる。

ほかに動物のウンチに集まる食糞性昆虫から住んでいた動物の種類を考察したり、ゴミムシ科やオサムシ科などの地表性歩行虫、ゲンゴロウやミズスマシなどの水生昆虫によって、地表

環境や水域環境の様子を知ることできる。

縄文人は森の中

勝川遺跡を中心に、町田・松河戸の3遺跡から筆者らは合計4000点に及ぶ昆虫化石を発見し、その結果を時代ごとに分析した。（詳細は62年度年報を参照）

今から約5000年前の縄文時代中期の頃には、森林性の樹液に集まるコガネムシ科の昆虫や清流に住むマメゲンゴロウ属などが多く、人々は木立に囲まれて生活していた。

弥生時代になると、オオセンチコガネやコブマルエンマコガネなど食糞性の昆虫がめだつようになり、弥生後期にはイネネクイハムシがふえる。その結果、村の人口がふえ、水田開発が進んだ様子が伺われる。

古墳時代・奈良時代は水生昆虫が多く、川の辺りは湿地帯になった。そして、平安時代には再び大規模な水田開発が進行したらしい。

江戸時代の勝川・松河戸の両遺跡は、ヒメコガネやドウガネブイブイなど人家の近くに住む昆虫化石で大部分が占められ、きわめて人の気配の濃い環境だったことが復元されたのである。

このように昆虫化石を利用して古環境をさぐる調査法が軌道に乗りつつある。昨年度の勝川遺跡につづいて、今年度は朝日遺跡周辺の環境復元に重点を置いて調査・研究を進めている。

（森 勇一・伊藤隆彦）

資料紹介

岩倉城遺跡出土の
木造地藏菩薩像

県道萩原・多気線建設工事に伴う岩倉城遺跡の発掘調査において、木造の地藏菩薩像が1体出土した。外堀と推定される大溝の底近くから出土したもので、16世紀初頭の日茶椀や播鉢、土師質皿が伴出した。

地藏菩薩像は、高さ7cm、幅2.1cm、厚さ0.8cm、丸彫りで、台座の蓮弁には鮮かな朱漆が認められる。背面上部には光背をとめた痕跡らしい貫通しない一孔がある。残存状態は良好で、熟練した彫刻技術がうかがわれる。

この地藏菩薩像は「千体仏」と考えられる。千体仏とは、中世民間信仰において、高さ10cmほどの小仏を多数作って供養・奉納したもので、追善・逆修あるいは子授け祈願を目的としたらしい。なお地藏菩薩像が多いのは、『地藏十輪

経』、『地藏本願経』などの經典により、地藏菩薩が無数の分身をあらわして六道の衆生を救済すると信じられていたためらしい。

(松原隆治)

参考文献 元興寺 1986『中世庶民信仰資料』



お 知 ら せ

埋蔵文化財展

埋蔵文化財についての理解を深めるため、埋蔵文化財センターで発掘調査した出土品を尾張・三河の2会場で一般公開します。

・三河会場

蒲郡市郷土資料館

7月29日(金)～8月7日(日)

※8月1日(月)は休館

・尾張会場

愛知県埋蔵文化財調査センター

8月15日(月)～8月31日(水)

※8月21日(日)は休館

埋蔵文化財講演会

学識経験者による埋蔵文化財や文化遺産についての講演会、埋蔵文化財展の期間中、三河・尾張の2会場で各々1回行います。

・三河会場

蒲郡市市民会館中ホール

7月30日(土)

演題 「奈良時代の尾張・三河と平城宮」

講師 (勲)大阪府文化財センター理事長

坪井 清足

・尾張会場

愛知県埋蔵文化財調査センター

8月28日(日)

演題 「古墳とまつりーその考古学」

講師 奈良大学教授 水野 正好

基礎研修会

市町村の埋蔵文化財担当者を対象とした研修会を開催します。

愛知県埋蔵文化財調査センター

8月25日(木)・26日(金)

I. 埋蔵文化財の保護

II. 文化財保護法解説

III. 発掘調査にかかる予算の組立て方と補助金制度

IV. 発掘調査資料の保存と活用

V. 三の丸遺跡発掘調査現場見学(予定)

愛知県埋蔵文化財担当専門職員名簿（昭和63年6月1日現在）

県市町 村名	所 属	電 話		県市町 村名	所 属	電 話	
		職 名	氏 名			職 名	氏 名
愛知県	教育委員会文化財課	<052>	961-2111 主 任 赤 羽 一 郎 教育主事 遠 藤 才 文	一宮市	一宮市博物館	〃	平 出 紀 男
	埋蔵文化財調査センター	<05676>	7-4164 所 長 伊 藤 稔 主 査 加 藤 安 信			〃	木 村 有 作
名古屋市	教育委員会文化課	<052>	961-1111 学芸員 小 島 一 夫 〃 山 田 敏 一	瀬戸市	瀬戸市歴史民俗資料館	〃	野 澤 則 幸
						<0561>	84-7474 学芸課長 柴 垣 勇 夫 主任学芸員 浅 田 員 由 学芸員 仲 野 泰 裕 〃 井 上 喜 久 男 〃 野 末 浩 之
小牧市	教育委員会社会教育課	<0568>	72-2101 主 任 中 嶋 隆 嘱 託 坪 井 裕 司	尾西市	尾西市歴史民俗資料館	〃	伊 藤 正 人
稲沢市	教育委員会社会教育課	<0587>	32-1111 主 事 北 條 献 示 文化財調査員 日 野 幸 治			〃	服 部 哲 也
東海市	教育委員会社会教育課	<052>	603-2211 主 査 立 松 彰	半田市	半田市立博物館	〃	竹 内 宇 哲
岡崎市	教育委員会社会教育課	<0564>	23-6439 主 事 荒 井 信 貴 嘱 託 川 崎 み どり 〃 伊 藤 久 美 子			〃	千 田 嘉 博
安城市	教育委員会社会教育課	<0566>	76-1111 学芸員 奥 村 勝 信 天 野 信 治	尾西市	尾西市歴史民俗資料館	<0586>	46-3215 副 館 長 岩 野 見 司 学芸員 土 本 典 生 〃 田 中 禎 子
西尾市	教育委員会社会教育課	<0563>	56-2111 主 事 松 井 直 樹			<0561>	82-0687 学芸員 藤 澤 良 祐 〃 服 部 郁 〃 山 下 峰 司 嘱 託 松 澤 和 人 〃 大 蔵 順 子 〃 服 部 文 孝
豊田市	教育委員会社会教育課	<0565>	31-1212 副主幹 田 端 勉 主 査 伊 藤 達 也 主 事 森 泰 通	尾西市	尾西市歴史民俗資料館	<0586>	62-9711 学芸員 伊 藤 和 彦
豊川市	教育委員会社会教育課	<05338>	5-2111 主 事 前 田 清 彦			<0569>	4-5290 学芸員 立 松 宏 〃 山 本 恭 弘 〃 近 藤 英 正
新城市	教育委員会社会教育課	<05362>	3-1111 書 記 補 鈴 木 隆 司	知多市	知多市民俗資料館	<0562>	33-1571 館 長 杉 崎 章
師勝町	教育委員会社会教育課	<0568>	23-6111 主 事 補 市 橋 芳 則	知立市	知立市歴史民俗資料館	<0566>	83-1133 主 事 補 岡 本 茂 史
幸田町	教 育 委 員 会	<0564>	62-1111 学芸員 栗 田 真 澄	新城市	新城市地域文化広場	<05362>	3-2333 主 事 渡 辺 敬 一
一宮町	教 育 委 員 会	<053393>	3111 主 事 須 川 勝 以	豊橋市	豊橋市美術博物館	<0532>	51-2621 学芸員 贊 元 洋 〃 小 林 久 彦 〃 岩 瀬 彰 利
名古屋市	名古屋市見晴台考古資料館	<052>	823-3200 学芸員 野 口 泰 子	蒲郡市	蒲郡市郷土資料館	<0533>	68-1881 学芸員 小 笠 原 久 和
				清洲町	清洲貝殻山貝塚資料館	<052>	409-1467 主 任 高 橋 信 明
				武豊町	武豊町歴史民俗資料館	<0569>	73-4100 館 長 磯 部 幸 男 学芸員 奥 川 弘 成
				三好町	三好町立歴史民俗資料館	<05613>	4-5000 館 長 安 田 幸 市
				足助町	足 助 資 料 館	<0565>	62-0387 館 長 鈴 木 茂 夫 主 事 鈴 木 昭 彦
				設楽町	設楽町立奥三河郷土館	<05366>	2-1440 館 長 鈴 木 富 美 夫

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター 名簿一覽

役員

理事長 中根 昭二
 常務理事 鈴木 正明
 理事
 小金 潔 県教育長
 井関 弘太郎 名古屋大学名誉教授
 伊藤 秋男 南山大学教授
 大参 義一 信州大学教授
 坪井 清足 (助)大阪文化財センター理事長
 楢崎 彰一 名古屋大学教授
 花木 蔦雄 都市教育長協議会会長
 (一宮市教育長)
 金鳥 覚 町村教育長協議会会長
 (西枇杷島町教育長)
 下田 修司 県土木部長
 白井 正巳 県教育委員会社会教育部長
 林 正治 清洲貝殻山貝塚資料館長
 (清洲町長)
 山田 五夫 陶磁資料館館長

監事

小倉 政則 県出納事務局次長
 鈴木 毅 県教育委員会総務課長

専門委員

考古学 楢崎 彰一 名古屋大学教授
 文献史学 早川 庄八 名古屋大学教授
 地理学 井関弘太郎 名古屋大学名誉教授
 建築史学 浅野 清 愛知工業大学教授
 動・植物学 渡辺 誠 名古屋大学助教授
 形質人類学 池田 次郎 岡山理科大学教授
 保存科学 江本 義理 前東京国立文化財
 研究所保存科学部長
 岩石学 諏訪 兼位 名古屋大学教授
 木材組織学 木方 洋二 名古屋大学教授

職員

事務局長(兼管理課長) 太田 正男
 管理課
 主査 古田 伴弘
 主事 鈴木 孝治 田上 堅三
 大野 智靖 小倉 晴美
 調査課
 課長 明壁 正毅
 課長補佐兼主査 森 勇一
 主事 赤塚 次郎 石黒 立人
 松原 隆治 服部 信博
 後藤 浩一 真鍋 雅治
 主査 山仲 廣司
 主事 樋上 昇 神谷 友和
 嘱託 菅沼 圭介
 主査 平田 睦美
 嘱託 野口 哲也
 課長補佐兼主査 土屋 利男
 主事 池本 正明
 嘱託 菅沼 良則
 主事 北村 和宏 福岡 晃彦
 酒井 俊彦 安井 俊則
 主査 水谷 朋和 宮腰 健司
 主事 川井 啓介
 日比 宰一
 嘱託 飴谷 一
 主事 鈴木 正貴 久博
 嘱託 岡本 直久
 主査 梅本 博
 主事 小澤 一弘 佐藤 公保
 嘱託 伊藤 隆彦
 主事 城ヶ谷 和広
 嘱託 松田 訓 加藤 とよ江
 (昭和63年6月1日現在)

セ ン タ ー 一 日 誌

役員の変動

常務理事辞任 3月31日 中林 茂
 理事辞任 5月31日 大溪 紀雄
 〃 辞任 3月31日 中神 秀雄
 〃 辞任 〃 日下 英之
 監事辞任 〃 石原 坂男
 〃 辞任 〃 龍野 等

職員の変動

青山 光一 県教育委員会職員課へ
 鷺野 勉 一宮高等学校へ
 山田 耕治 蒲郡市立塩津小学校へ

平野 清 津島高等学校へ
 細野 正俊 尾西市起小学校へ
 中野 良法 春日井南高等学校へ

埋蔵文化財愛知 No.13

発行 昭和63年7月
 編集 (財)愛知県埋蔵文化財センター
 〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田
 宇野方802番24
 TEL 05676-7-4161
 印刷 東海プリント社